

**長岡市・寺泊町合併協議会
第2回新市建設計画策定小委員会**

議 事 録

第2回新市建設計画策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成17年1月24日(月) 午後4時
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸
島田 紀男 田村勝三郎 阿部 誠一

以上 7名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡市・寺泊町合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

定刻となりましたので、ただいまから長岡市・寺泊町合併協議会第2回新市建設計画策定小委員会を開催いたします。

なお、本日は委員全員の出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

また、合併協議会同様に、ご発言の際にはお近くのマイクをお使いくださるようお願いいたします。

それでは、お手元の資料について確認をお願いいたします。資料は、3種類、資料1、2、3でございます。

この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、これから議事を進めてまいりたいと思います。

お手元の協議会の次第の中にございますように、最初に新市建設計画について、これにつきまして事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明をいたします。事務局の竹見と申します。よろしくようお願いいたします。失礼ながら座って説明いたします。

それでは、資料1をごらんください。資料1は、建設計画の第1章の新市の概況からみた可能性の後半の部分でございます。新市の競争力ということで、寺泊町さんのデータをこちらの表の中に入れ込んで、そして文章が変わるところにつきましては変えております。文章が変わったところにつきましては、四角で囲って網かけをしております。

まず、1ページ目は、新市の競争力ということで、各地域の産業の成長、あるいは産業中分類別の事業所特化係数、あるいは従業者と全県におけるシェアというものをそれぞれ寺泊町さんのデータを入れ込んでおります。

続きまして、2ページをごらんください。2ページは、こちら右にありますように、小売1店舗当たりの販売力と小売吸引力、それから年間の販売額などをグラフにしてまとめております。

続きまして、3ページをごらんください。こちらは主に農業関係、米の生産額などをまとめております。寺泊町さんは、海というイメージが非常に強いんですけども、内陸部では農業も非常に盛んな地域であるということのなかで、米の生産額などをグラフでまとめてございます。それから、文章の方も、真ん中の方にありますけども、新市で1年間当初80という数字でしたが、86万人が消費する量に相当するという形で変えております。

続きまして、4ページをごらんください。こちら新市の暮らしやすさということで、汚水の処理施設整備率、あるいは刑法犯罪認知件数などをまとめておりますけれども、汚水処理の整備率におきましては寺泊町さんが汚水処理施設について少し遅れているということの中で、6市町村では94.8%であったんですが、91%という形で整備率については落ちております。

続きまして、5ページをごらんください。こちらにつきましては特にデータ等がございませんでしたので、特に変更はありません。

それから、6ページをごらんください。4番の新市の交流する力ということですが、右側のグラフでいいますと二つ目ですけども、高速道路インターチェンジまでのアクセス時間をそれぞれの市町村ごとにまとめています。こちらの資料といたしましては長岡地域振興計画では、寺泊町さんの場合はこちらの振興計画の中に入れておりませんでしたので、振興計画で作成した内容と同様な方法で計算しました。一番下にありますように、寺泊町から中之島見附インターチェンジまでは34分という形であらわしております。文章の方も、新市の各地域から高速道路インターチェンジへのアクセス時間を見ると、約35分以内となっているという形の表記に変えています。それから、観光入り込み客数と観光客の伸び率ですけども、寺泊町さんの入り込み客数が非常に多いといったことの中で、文章の方も新潟市には及びませんがという文章になっております。それから、一番下にありますように、県外観光入り込み客の推移ということの中で、非常に寺泊町さんが新市における合計の割合を示しますと約53%という数字になって、非常に観光客の入り込み、新市になると寺泊町さんのウエートが大きくなってきているということです。

続きまして、7ページです。こちら新市の交流する力ということの中で、新市内の通勤通学流動の状況、そういったものをまとめてございます。

あと8ページは、新市の交流する力ということで、海外の姉妹都市等を示しておりますけど、寺泊町さんは姉妹都市については特に結ばれていないと。ただ、NPOにつきましては、NPO認証推移ということで、一番下の数値で四角で示しております。

説明は以上です。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

最初の検討内容でございます新市建設計画の内容ですが、今説明受けた内容で何かご質問等がありましたらお願いしたいと思います。

インターチェンジまでの34分と、これよろしいですか。

はい。

委員（島田紀男）

この表示にはいろいろの算定の方式に基づいて算定したというお話をいただきましたけれども、実際走りますと30分以内に走れるんじゃないかなと思っておるんですがございますけれども。

委員長（豊口 協）

というご意見ですが、法定速度を守っての話だと思いますけども、いかがでしょう。どうでしょう。微妙な差なんですけども。

事務局（竹見）

前もそういったことがありましたが、根拠を一応こちらの方に示しておけばよろしいと思いますんで、例えば協議会調べとかで30分とかという形でも可能だと思いますけども。

委員（大地正幸）

ルートはどこですか。堤防のところですか。

委員長（豊口 協）

堤防ですね。

どうでしょう。協議会調べで30分以内と。また、この数字を見た人は、これじゃかなりスピード出しているぞなんていう印象持つと困るんですけども。

印象としては、30切っているというのはかなりいいですけどね。

事務局（北谷）

他とは違って、出典の資料にないデータですので、例えば事務局調べという形でアクセス時間を載せることは可能なんです。

委員長（豊口 協）

はい。それじゃ、ご意見をいただきまして、30分以内というふうに文章の中を訂正していただいて、このグラフの方も30分というふうにいたしますか。はい、お願いいたします。ありがとうございました。

ほかに何か特にございませんか。

はい、お願いします。

委員（鯉江康正）

済みません。何を今さらと言われそうなんですけど、1ページ目の出荷額増減率というのがあるんですけど、これは対前年ですよ。1ページ目の右の図の上から二つ目というか。あるいは、事業所増減率もそうなんですけども、これは何がベースですかね。

コンサルタント（牛来）

今平成10年かその前年度かちょっと今確認できませんので、確認をひとつ至急いたしますので。

委員（鯉江康正）

はい。それやっぱ明らかにしとかないとちょっとまずいと。

いや、データは工業統計でいいんですけど、何年からの増減率かというのが。

委員長（豊口 協）

よろしいでしょうか。それでは、今いただきましたご意見を事務局の方で調整していただいて整理をしていただくということで進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、次に移らせていただきます。既に6市町村で作成されました新市将来構想の4本の柱がありまして、新市地域らしさ価値というものがあるんですけども、新市民と行政が共有しながら協働して高めていくものになってこれはまとめられております。寺泊地区の特性を活かし、活動を継続していくということをこの新市地域らしさの価値高めていくものとしての役割をこの中で担っていくということを確認させていただきたいと思います。今日は、次にもありますように、寺泊地区の地域別整備・活動方針がまとめられたということでございますので、それを審議することになっております。その内容につきまして、事務局の方からまず説明をしていただきたいと思います。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明いたします。

最初に、資料2をごらんください。資料2は、「寺泊地域の夢」検討の流れについてということで、地域別整備・活動方針の検討の流れをご説明をしているものです。まず、最終的には、将来構想、それから建設計画の方に整理されたものが掲載されるわけなんですけど、こちらを検討するに当たっては、寺泊町さんの職員の皆さん、それから事務局、そしてコンサルタントと一体になって作成をしてみました。

検討内容につきましては、地域の資源、それから素材などを残らず挙げたり、そしてほかの地域の、6市町村の地域の資源を共有した中で、いろんな地域らしさ価値実現に向けた寺泊地域の役割を考えてきたということです。

そして、検討の流れとしては、ステップが大きく四つに分かれています。寺泊地域の歴史とか風土、住民活動の整理、あるいは地域資源をいろんな、非常に地域資源多かったわけなんですけど、こういった地域資源を洗い出し、そして絞り込み、そして地域らしさ価値実現に向けてのそういった強み、それから高めるための地域の方向性などを検討してきたと。それで、ステップ3では、地域別整備・活動方針を検討し、そしてそれに伴う住民の方々の活動展開を検討してきたと。そして、最終的に6市町村の企画総計・合併担当ワーキングメンバーからのご意見いただいた中でまとめてまいりまして、今回お諮りすることになりました。

続きまして、資料3をごらんください。資料3の表紙をおめくりいただきますと、それぞれの地域らしさ価値ごとの活動方針がまとめてあります。本来であれば和島さんのように、寺泊地域はこんなところとか、あるいはもっと詳しく地域の力ということを本日お示しすればよかったんですけど、地域資源が余りにも多過ぎてなかなかまとめ切れないうところがありまして、次回の小委員会でお出しできると思います。

まず、こちらの資料につきましては、地域のイメージについて、各地域の地域資源と特色を活かして

活動を継続していったときにいつか達成できる可能性のある寺泊地域の夢の姿やまちづくりに向けた活動であるということです。ですので、寺泊地域がどういう役割を担っていくのかを明確に示してあるということです。

こちらのまず独創企業が生まれ育つ都市をごらんいただきたいと思いますが、新市全体のありたい姿、いわゆるWANTですが、これが独創企業が生まれ育つ部分であると。

これを高めるために、右の上の方にありますように、活用したい地域資源、CANという形でまとめてあります。これは、寺泊地域固有の資源で地域らしさ価値を高めるためのものであると。強みと内容を示してあります。

それから、左下の方、実現すべき寺泊の姿ということで、地域資源と、それから新市全体の地域らしさ価値を高める方向性を合わせますと、実現すべき寺泊の姿としてまとめてあります。

それから、右の方に、見極める、発信する、育てるという観点の中で、住民と行政が一体となって取り組んでいく活動展開をそれぞれまとめております。

それでは、寺泊町の職員の方からご説明をいただきます。よろしく願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、よろしく願いいたします。

寺泊町総務課（谷地）

寺泊町の谷地と申します。それでは、少々お時間をいただいて、説明させていただきます。申しわけありません。座らせてもらって説明させていただきたいと思っておりますので。

まず最初に、独創企業が生まれ育つ都市の新市地域らしさ価値についてですが、CAN、活用すべき地域資源として、集客力とネームバリューを獲得した水産業、観光産業の実績と可能性、「海の寺泊」ブランドを推進してきた地域力の実績、漁師の「仕事」「食文化」など、まだ知られていない地域に潜在するビジネス資源としての「技や知恵」、「釣り」「マリンスポーツ」などのレジャー・レクリエーション活動に潜在する情報・技・人材の活用を挙げてみました。

これらを活用して、WANT、ありたい姿として、人材や卓越した技術など、地域資源の発掘を通じたビジネスの開発、マーケティング活動の促進や地域資源のネットワーク活用による産業のグローバル化の模索といたしました。

WILL、実現すべき寺泊として、海と歴史・文化に育まれた技や知恵、産業（営み）の中に新たなビジネスチャンス創造するまちづくりといたしました。寺泊といえば海というのは周知の事実なのですが、ただ単に海という言葉で言いあらわせない海が持つ潜在的な資源、そしてそれに培われた技や知恵、産業のところで営みと表現いたしました産業の中にも海にかかわる人々の営み、漁師の技や知恵などについてはまだまだ埋もれたままで、地域の人々でも強く認識されていない部分がたくさんあります。

そこで、見極めるの一つとして、この地域の潜在資源を地域住民と行政が協働で発掘する仕組みづくりといたしました。二つ目のマーケティング活動も含め、寺泊地域外の企業者との交流など外部の意見

を終始する活動の実施は、一つ目で発掘した地域資源と今までになかった他地域との交流によって新しいアイデアをビジネスチャンスに創造しようとするものです。この二つを見極めることによって、地域の産業の特色や内容を新長岡地域はもとより、県内外に広く発信していくものです。これらを育てるために、地域の人々に対して地域資源の潜在的な可能性について理解を深めてもらい、一人ひとりの起業への発想を育てる活動を行うというものです。

続きまして、元気に満ちた米産地についてですが、CAN、活用すべき地域資源として、野積や郷本などの海辺集落に見られる独特の風土、風習（酒づくりの杜氏文化など）、歴史に培われた大河津や夏戸などの農村集落に見られる文化、特性（結束力など）、寺泊地域全体が形成するのんびり、のびのびとした「懐の深い空気」をつくる空間、具体的に申し上げますと、日本海の大海原、美しい夕陽、汐の香り、それと素朴な田園や海辺の風景、毎夜続く蛙の合唱、歴史の足跡（寺社仏閣、船絵馬など）、食材宝庫 海の恵み、山の恵み、園芸施設の推進などを挙げました。

これらを活用して、WANT、ありたい姿として、農漁村地域の文化や伝統を守ることで「元気に満ちた米産地」を高める、上記の実現による伝統的な農村漁村生活原体験を土台とした交流地域の形成といたしました。

WILL、実現すべき寺泊として、「満ち足りた生活原体験」を未来に引き継ぐ集落文化保存地域への挑戦といたしました。寺泊町には、野積や郷本などの海辺集落には漁師や杜氏の独特の風土、風習、田園地帯で昔から古きよき生活様式、結束力を守り、受け継いできた大河津や夏戸地区に代表される農村部、そして地域の財産である美しい夕日、汐の香り、延々と続く砂浜、波の音など豊かな自然と景観に裏づけられた懐の深い雰囲気、空気、これらは他地域に誇れる素朴であるがゆえにすばらしい伝統文化であります。また、雪の少ない立地環境を生かしたハウス面積で1万6,200平方メートル、出荷高2,500万円ほどの施設園芸が地域資源としてあります。これら資源環境を保全、活用し、素朴で伝統的な集落生活を来訪者に提供することで集落文化の保存地域として挑戦していこうというものでございます。

これらを見極めるとして、各集落がそれぞれの伝統文化を再評価し、情報化していく活動を実施する。地域の財産である景観や自然環境を保護する運動を推進するといたしました。発信するでは、無形的な文化（言葉・生活様式・食文化・景観など）の宝庫としての“寺泊”を情報発信する。育てるとして、既存の集客層を資源として、「集落生活体験」「自然環境保護」への理解を深める活動を推進する。体験・活動を提供するための受入体制づくりといたしました。

世代がつながる安住都市では、CAN、活用すべき地域資源として、内陸農村集落（大河津、本山、山ノ脇など）の結束力（“あんにゃさ”の力）というふうな形で表現させてございます。野積集落の隠語文化など集落共有意識、地域住民の意思によって守られた集落固有の文化、ボランティアによる地域の美化活動（海岸清掃等）、寺泊地域全体が形成するのんびり、のびのびとした「懐の深い空気」をつくる景観、充実した老人福祉、小学生と高齢者の交流、「寺泊町地域づくり特別事業」試みの歴史を挙げてみました。

これらを活用して、WANT、ありたい姿として、世代がつながる安住都市を実現するための人材育成の推進、世代間の役割認識と分担を通じた世代交流によるまちづくりの推進といたしました。

WILL、実現すべき寺泊として、地域の歴史を希望と力に換えてゆとりとやさしさの寺泊人が推進する世代協働のまちづくりといたしました。寺泊町の内陸農村集落には、あんにやさと言われる若い衆の結束力、野積集落の隠語文化などに見られる集落共有意識、充実した老人福祉施設と、これら施設入所していただけます方々と小学生との10年以上にわたる交流、地域、世代間を超えた交流の試みとして、活用したい地域資源で挙げてありますが、具体的な事例として寺泊町地域づくり特別事業、5分科会“地域文化”や“環境と福祉”など)に分かれて地域住民で事業を計画し、実践した試みの歴史、当時としても先進的な取り組みに着手した地域力の実績、これら上記の活動を通じてできた「ボランティア団体」によって、現在も花壇整備活動やITを使った情報発信を行っている団体の存在があります。

これらを見極めるとして、家庭教育や保育所活動などを通じて、子どもの生活や子育てを支援する場や仕組みづくりを行う。地域間、世代間で議論を行っていくことのできる場や仕組みの構築といたしました。自分を認め、他人を認めて行動できるゆとりとやさしさを持った人間形成の仕組みをつくるということです。また、自他を認めて成り立つ「役割」を地域間、世代間で共に考え、共働するまちづくりのあり方を構築するという事です。発信するといたしまして、「世代共働のまち・寺泊」に関する情報発信を行うという形で提案してございます。育てるでは、地域の人々が主役となって、地域間交流や世代間交流を円滑にする役割の「地域づくり推進組織」を育成するという形で提案してございます。

最後の世界をつなぐ和らぎ交流都市でございしますが、CAN、活用すべき地域資源として、北前船の寄港地として歴史・文化地域、寺泊・歴史の足跡(寺社仏閣、船絵馬など)、海辺、農村の多様な集落文化の集積地、「海の寺泊」ブランドを構築してきた地域力の実績、寺泊の水産販売の繁栄の原点、寺泊 赤泊航路の役割、寺泊の人々と佐渡との交流を挙げてみました。

これらを活用して、WANT、ありたい姿として、新ながおか地域が初めて出会う地域資源、海、海岸、漁村等の海辺文化の活動と連携、日本海を通じた新たな交流地域の模索。

WILL、実現すべき寺泊として、日本海、佐渡ヶ島...、そして世界へ、新ながおかの新たな夢を拡げる現代の北前船交流拠点の構築として提案してございます。

これらを見極めるとして、「海の寺泊」ブランドを構築してきた水産業、観光産業の地域力に限らない江戸時代にあった北前船の寄港地として栄えた海辺の歴史と文化や農村集落の文化のさらなる活用によって、交流体験地域の場や仕組み、プログラムの整備を行うというものです。発信するでは、海の玄関口、新ながおかの地域情報を発信、1時間で結ばれる最短、最速の寺泊 赤泊航路の発信を提案してございます。育てるとして、これらを実現するために地域が一体となってもてなしの心を育成する、文化交流案内人と組織の育成を提案いたしました。

以上で説明を終わらせていただきますが、寺泊を思い描くときに、魚の市場通りや遠浅で波静かな海水浴場といった「海の寺泊」をイメージされると思いますが、寺泊町はこれだけではなく、寺泊に息

づく漁師の文化や酒づくり杜氏の文化、田園集落の文化などを大事に守り、受け継いできたすばらしい地域です。合併を機に、これらの地域資源を住民みずから再認識、活用し、企画、実践することでさらなる地域力として新長岡において発揮していきたいと考え、提案させていただきました。

ありがとうございました。よろしく申し上げます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

この合併の話が持ち上がりまして3年目に入っているわけですが、海に関して議論を交わすというのは初めてでございます。今日ご説明いただいた内容をお聞きいただいて、いろいろ夢がまたはせているんじゃないかと思いますが、今までご説明をいただいた中で何かご質問、さらには追加してこういうことも説明したいというようなことがありましたらお願いしたいと思いますが。あと新長岡市の海の玄関口としてのこれから責任といいますか、義務といいますか、仕事が大きく膨れ上がるということで、これは本当に全く新しい市の構成といいますか、市そのものの今までの形が変わるんじゃないかという気が、経済的にも変わるんじゃないかという気がいたしますけど、ご質問等ございませんか。

はい。

委員（田村勝三郎）

委員長さんが海の問題を出されましたけれども、私の方から寺泊農業の関係で少し発言をさせていただきたいと思っております。

元気に満ちた米産地でございますけれども、この新市全体のありたい姿の中の元気に満ちた米産地がありますが、これに関連したCANやWILLの中でそれに直接結びつく農業用語がございませんが、寺泊の千何百町歩の農地の中には、今ほど説明がありましたように、ハウス園芸や花卉園芸や、あるいはまたわずかな畜産もございますけれども、そのほとんどが米産地でございます。米の今生産面積は、前年度の販売実績に応じて作付が伸びるシステムになってまいりました。したがって、どこの産地も懸命になって良質米をつくり、できるだけコストを下げ販売実績を上げたいとしているわけですが、寺泊におきましては減農薬、減化学肥料の指針をつくりまして懸命に努力をいたしております。具体的に申し上げますと、来年からは航空防除を1回にする。今2回でございますけれども、1回にする。あるいは、コシヒカリのいもち病に強い品種を、毎年度100%種子を更新なさいというJAさんの指導もございますけれども、自らそのように意識をしております。あるいはまた、生産トレーサビリティ等の生産履歴についてもしっかりと自己責任において報告をして、消費者まで生産者の声が責任を持って届けられるようにそんなシステムを構築しながら売れる米を生産する強力な運動を展開しておりますし、今後もしなければと思っておりますので、そういった観点のものを若干ここに加味いただけないかというのが私のお願いでございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

今お話しいただきましたお米の話ですけども、非常に理想的なこれから育成といいますか、栽培を進められるということですが、この辺は新しい新市全市共通してそういうベースで考えてよろしいんですかね。いかがですか。

事務局（竹見）

今お話しいただきましたように、地域資源につきましては、先ほどハウス園芸というお話がありましたけども、雪が非常に少ないということの中で、施設園芸の推進ということでCANの中で挙げております。それから、減農薬、減化学肥料ということで、今そういったものがCANとしてこちらの中に入れた方がよろしければ、当然これからの中でまだ訂正とかは可能ですけども。

委員（田村勝三郎）

若干ご検討いただければと。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにございます。この施設園芸というのは、具体的にはどういう内容なんでしょうか。

委員（田村勝三郎）

メロンであり、あるいはまたイチゴであり、施設の中には花卉が多く育てられています。

委員長（豊口 協）

わかりました。ありがとうございました。

ほかによろしいですか。この後意見交換でいろいろとまた夢を語っていただくところがございまして、こういう説明をベースにした上で、聞いた上でさらにご意見をいただければと思いますが、今までのところで特にご質問等がなければ次に移らせていただきたいと思いますけど、よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、次の意見交換に入ります前に、事務局の方から意見交換の軸といいますか、そういうことについてちょっと説明をお願いします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明いたします。

ただいま寺泊地域の地域別整備・活動方針をご説明させていただいたわけですけども、この活動方針、それから見極める、発信する、育てるという活動展開の中で、今後新市としてどういうふうなまちづくりをしていったらいいか、そういった観点の中で委員の皆さんからご意見、あるいはお考えをお聞きしたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

委員長（豊口 協）

ということでございます。寺泊地域の地域別の整備、活動方針、このことについて、これだけとはにかくやってほしいとか、こういうことをやりたいんだとか、こういうことが一つの新しい新市の中のポ

イントになるような非常に重点的な問題になるというふうなことも含めて自由にひとつご発言をいただきたいと思いますが、時間もたっぷりございますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

副委員長、何かないですか。

副委員長（鯉江康正）

余り漁業ばっか言うなと言われちゃいそうなんです、例えば糸魚川だと塩の道ってありますよね。そうすると、やっぱり寺泊をベースにして長岡とか、あるいは中越地区への魚の道ってやっぱあったと思うんですね、歴史的に言えば。どうも今日のこれを見ていると、寺泊から佐渡へ発信するんだとか寺泊から世界に向けて長岡地域を発信していくんだということがあるんですけども、もっと歴史的に言えば多分その魚というものを通じて寺泊や長岡にいろいろ食の豊かさを与えてきた部分があると思うんですね、歴史的には。そういう部分をひとつ何かつけ加えていただきたいなというか、というのは将来的に一緒になってしまうと、そこは長岡市なんだということになってしまふと思ひますんで、やっぱり歴史としてそういうものがずっと運ばれたとか、そういうようなものが何かとっておければ非常にいいんじゃないかなというふうに思ひますが。

委員長（豊口 協）

それと、今のことに関連してなんですけども、私もちょっと歴史、お金に余り関係ない人間なもんですから、佐渡の金山の金が恐らく寺泊にも来ていたんじゃないですか。わかりませんか。それで江戸の方へ行ったというふうなことはないんでしょうか。

「出雲崎」という声あり

委員長（豊口 協）

出雲崎へ入っているわけですか。ああ、そうですか。ああ、なるほど。ちょっと横道へそれて入ってきたとかないんですか。わかりました。済みません、どうも。

委員（鯉江康正）

魚はどうなんですか。長岡へ運ぶ基地としては。

委員長（豊口 協）

余り大きなウエートは占めていなかったということですか。

委員（島田紀男）

余り詳しくはないんですがございますけども、春先にとれますイワシ、今は珍しい魚と言われておりますけども、昔は、私ども子供のころは多くとれまして、それらはやはり地元だけの消費は無理でございますので、当然にして御市までの販売区域になっておったというふうに理解しておりますが。

委員（大地正幸）

佐渡へ行くには、新潟市が近いとイメージがあったのですが、今後寺泊が一番早く行けるということで、長岡市が佐渡に近いというイメージになると思われる。話題づくりの中では、海がある市というのは良いと思ひますし、今は寺泊に魚を買いに行くという感じだが、今後海の基地として海上スポーツな

どを通じて発展していったらどうかと思う。

委員長（豊口 協）

佐渡へ行くには一番近いんですね。

委員（大地正幸）

一番近いんですね。

委員長（豊口 協）

東京から来られる場合には非常に時間的にも節約になりますし、経済的にもかなり楽になりますね。その辺も含めて本当に日本海側の新しい港としてこれからどうしていくかと、これは全市を挙げて考えなくちゃいけない課題だろうと思いますけども、特に大学の関係者もこういう地域開発の仕事というか、研究している連中がかなりいますので、もちろん長岡大学の先生方にもおられますし、技大の先生もおられますから、3大学で協力して寺泊の新しい港町としての姿を研究するという、これはもうやぶさかじゃありませんので、ぜひそういうプロジェクトを、これは事務局長もちょっとそういうお話さっきされていましたが、やっていくとおもしろいだろうという一人ですけども。

ほかにご意見ありませんか。具体的にこれ計画を詰めていきますと、いろんな夢がどんどん、どんどん広がってくると思うんです。ただ、経済的にお金は物すごくかかる仕事になるだろうと思いますけども、なるほど新しい市町村合併が行われて、今まで海がなかったところに新しい海という一つの都市を構成する要素が入ってきたときに、それがどういうふうになっていくかということは恐らく日本じゅうでも注目するだろうと思うんです。そういう注目された姿をプラスの方向でまとめ上げていくということがこれからの新市建設計画の一番重要な課題にはなってくるだろうと思うんですけども、その辺もひとつ大きく夢を持ちながらこれから検討して詰めていきたいというふうに考えておりますが、どうぞご自由にご意見いただきたいと思います。よろしいですか。

はい。

委員（田村勝三郎）

恐縮でございます。ぜひ先生方のお知恵をおかりしまして、また長岡市さんのご協力をいただきまして、末端になります、位置いたします寺泊地域が、皆さん方のご期待に沿えるような形で発展できれば地元としても大変喜ぶわけでございますし、お願いをしたいと思っております。

それと、逆にまた私どもが長岡市にご期待申し上げるのは、現在でも寺泊町内で日常の生活は足りておりますけれども、大きな買い物や、また大きな病気をしたときの対応はすべて長岡市に現在もお願いしておりますが、その際にこれから長岡市さんと合併をさせていただく際に一番やはり懸念されるのが、一つの市にならせていただきますが、できるだけスムーズに長岡市に到着できるような道路整備ができれば、これが一番大きな私どもの町民の、現在寺泊町民のお願いであり、また期待をさせてもらう部分であるかなと私は思っておりますが、よろしくご検討を、またお願いをいたしたいと思っております。

委員（阿部誠一）

具体的には建設計画の中で県の事業として出てくるのかどうか、その辺具体的な話を聞かせてもらって、その内容は県と協議になりますんで、その段階でちょっとまた判断をさせていただきたいと思っていますけども。

委員長（豊口 協）

私もこれ前からよくお話ししている夢なんですけども、これだけ大きく市の面積が広がりますと、これ今の確かに道路交通問題もいろいろ出てきますし、もう一つは救急医療対策というのが大きな問題になります。特に長岡の場合、今の長岡市には日赤病院もありますし、総合病院が確か五つほどあると思うんですけども、この医療施設をいかに全市に機能させるかということは問題になるだろうと思うんです。そうしますと、今度の地震でもって非常に効果をあらわしましたヘリコプターという一つの機動力がありますけども、こういったヘリコプターを使ってそれぞれの地域からの患者さんを至急その総合病院まで運んでくるというシステム、これは救急医療システムの一つとなると思いますけども、そういった新しいネットワークをつくりながら対策を具体化していくというふうなことも、これは新しい市の場合の私は大きな一つの課題だろうと思います。ですから、寺泊で患者さんが発生した場合に5分で日赤病院ないしはその関連のそういう病院まで運んでくれる、とにかくこの日赤病院の周りには空き地がございますので、ヘリコプターいつでもおりられるという状態になっていますから、その辺も計画を立てながら県ないしは国の方をお願いして理想的な対策を具体化するということが可能だろうとは私思っているんですけども、その辺も今度将来の建設計画の中で皆さん方のご意見をいただいて詰めていければと思っておりますが。

ほかにご覧いませんか。よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、今貴重なご意見いろいろいただきましたので、これをさらに事務局の方で精査をいたしまして、まとめてまいりたいと思います。

以上で議題がすべて終了いたしました。

事務局の方へお返しいたします。

事務局（高橋）

今後のスケジュールも含めて少しお話をさせていただきますが、かなりきついスケジュールになって恐縮でございますが、次回は1月28日金曜日を予定しておりますので、今週の金曜日ということになります。時間は午後4時からでございます、場所は今小委員会をしている会場と同じ、この会場ということで考えております。今日またさまざまな意見をいただきましたので、今日いただいた意見を踏まえて、次回は具体的な事業を含めてご提案をさせていただきたいというふうに思っております。そして、28日の小委員会でまとめた内容を1月の31日の日に予定されております合併の協議会本体の方に小委員会の案としてご報告をさせていただきたい、協議会でオーケーをいただいた形で県の方に事前協議に

入りたいと、このように考えておりますので、よろしく願いをいたします。

委員長（豊口 協）

今のことで何かご質問ございましたら、よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、28日、それから1月31日よろしく願いしたいと思います。ありがとうございました。

以上で今日の議題がすべて終わりましたので、これで第2回の新市建設計画策定小委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

（散会 午後4時54分）